

始業式あいさつ

令和5年4月6日

校長 豊岡 耕一郎

皆さんおはようございます。

今日から新しい年度が始まり、使用する教室が変わります。明日には新入生も入学してきます。この新しい年度を迎えるにあたって皆さん、やる気に満ち溢れワクワクしていますか？

私は、皆さんが今年はどうのような活躍をしてくれるのかと、期待に胸を膨らませています。

さて、昨年を振り返ってみると、様々な学校行事が再開されるにつれ、皆さんの活気ある行動を色々な場面で拝見することができました。

目線を合わせなくても元気よく挨拶をしてくれる生徒が多くなったこと、朝学習の時間には殆どの生徒が教室に入って各自が黙々と取り組んでいたこと、普段の授業においても意欲的で活気のある授業が多くなったこと、放課後や部活終了後でも自主的に残って勉強している生徒が多くなったことなど、自分の進路実現に向けて頑張る生徒が多くなりました。学校行事においても、各実行委員が中心となって運営してくれたお陰で、どれもが活気のあるものとして実施できていたし、部活動も黙々と練習しているクラブが1昨年より多くなってきたと感じており、大会を観に行くのを楽しみにしております。

いよいよ今年度はコロナを乗り越え、様々な教育活動が本格化していきますが、雪谷高校の集団としての力が試される1年でもあると考えています。

ところで、集団の力って何でしょう。私が考える集団の力とは、その集団を構成する一人一人が高い志をもって行動できていて、お互いに刺激しあい、相乗効果でさらに高めあえる集団となっ

ていることだと思えます。ですから、集団の力を高めるためには、まずは、個人一人一人の力を高める必要があります。

そのためには、これまでも何度も、言葉を変え言ってきたと思いますが、勉強においても部活動や学校行事、趣味においても、時間を忘れて、とことん本気で取り組むことが大切です。もしかしたら、楽しさよりも苦しきのほうが多く、望んだ結果を得られない場合もあるかもしれませんが、自らの意思で愚直にやり続けることが、やがて皆さん一人一人の力を高めることになります。しかも、その行動の中で発せられる熱は必ず周囲に伝播します。周りを巻き込んで、周りを感化させていきます。ですから、心が折れそうになった時は、周りを見渡してください。そこから元気を貰ってください。私は、そういった熱があちこちに感じられるような、そんな学校に雪谷高校はなっしてほしいと考えています。

今年の卒業生の多くが希望の進路を実現したことは、皆さんも聞いていると思いますが、何も特別なことをしていたわけではありません。この学年が集団としての力を持ち続け、最後まで雪谷高校の生徒として学校生活を全うしたからだと考えています。皆さん一人一人が、本当の意味で楽しいと思える、充実した1年を過ごすことを願っております。

最後に、今後のコロナウィルス感染症に対する対応についてお話しします。令和5年4月1日付の東京都教育委員会から出されたガイドラインによると、学校の教育活動において、生徒並びに教職員に対して、マスクの着用を求めないこととなりました。ただし、登下校中の混雑している電車やバスを利用する場合や、校外学習等における医療機関や高齢者施設等においては、マスクの着用が推奨されています。

皆さん、遂にマスクを外せる日がきました。長かったですね。

とはいっても、現在なお流行は下げ止まりの状況にありますから、コロナ感染症が5類へ引き下げられるまでは、基本的な感染対策は今まで通り続けてください。

学校内においての通常の授業や実習・実技、特別活動や部活動などは密集・密接を避け、触れ合わない程度の距離間を保ち、換気をまめに行いながら実施してください。昼食時の黙食は必要ありませんが、大きな声での話や、対面で食事は避けてください。咳エチケットや手洗い、消毒等も適宜行い、健康管理をしっかり行って学校生活を送ってください。

ただ皆さんの中には、様々な理由で感染不安を抱いている人もいますので、マスクの着脱を強いたり、差別をしたりすることのないようお願いします。

以上で、始業式の挨拶を終わります。